

学校評価に対する校長のコメント

保護者の皆様、地域の皆様には日頃から本校の教育にご協力いただき、ありがとうございます。年度末の学校評価は、学校としての振り返りの良い機会です。新年度の一つの指針として、学校評価により指摘された事項を考えていきます。

数値化した全体の評価は、昨年より多少上がりました。しかし保護者の皆様から「教職員は一体となって教育活動に取り組んでいる」の項目が 0.1 ポイント下がりました。さらに教員の自己評価でも「一体感を感じる」が 5 段階中 3.2 と低くなっています。これは校長のリーダーシップ不足から生まれたものであり、今年度の重点的な課題です。

また、進学指導の項目において昨年度より 0.1 ポイント上がったものの、全体の評価平均が 4 の中で 3.7 という状況です。教員の自己評価でも全体の評価平均が 3.9 に対して「進学で十分な成果を上げている」が 2.8 と、教員自身も進学実績に対して満足していません。この対策として今年度から放課後の受験特訓講座を高校 3 年生も対象にして、現役予備校講師を導入します。そして教員と予備校講師が連携をして、生徒の目標実現にあたります。

最後に「挨拶」に対しての指導のご指摘を受け止め、社会生活の基本として機会ある毎にその重要性を生徒に伝えていきます。

地域社会との関わりは女子校という性格から、なんでもオープンすることはできません。このために、学校として地域社会との関わりが希薄になりがちなのが現状です。今後は生徒にとって社会生活への訓練と社会貢献の場として、地域との良い関係を模索していきます。